

**CPLS**

京都大学生命科学系キャリアパス形成ユニット

セミナーのご案内

ヒストン複合体から迫るクロマチンダイナミクス -HiTAP1はヒストンH3/H4を解離させる-

演者: 名古屋市立大学大学院 システム自然科学研究科
田上 英明 准教授

場所: 医学部 B棟 3階 基礎第一講堂

日時: 平成23年9月21日(水) 17:00~18:00

細胞の分化やがん化などの分子機構の理解が進むにつれ、DNA配列情報に刻まれた遺伝学的要因だけではなく、エピジェネティック制御の重要性が認識され始めた。DNAメチル化およびヒストン化学修飾を介したクロマチン構造制御が可塑的な細胞メモリーとして機能するのである。しかし、一方でクロマチン構造は間期においても非常にダイナミックに変化する。この一見すると二律背反するクロマチン制御について、私たちは反応中間体である可溶性(クロマチンに取り込まれていない)ヒストンを複合体として解析することにより捉えたいと考えている。

今回は、クロマチン構造形成、変換、維持に関わる因子群を生化学的にスクリーニングするためのヒストン複合体スナップショット解析を紹介し、その中で、新規ヒストンH3結合因子として単離したHiTAP1の分子機能について焦点を当てる。分裂酵母からヒトまで高度に保存されているHiTAP1を介した新たなエピゲノム制御の可能性とその生理的意義について議論するとともに、ヒストン分子間のバランス制御やヒストン量的制御と細胞機能との接点を探りたい。

連絡先: 生命科学系キャリアパス形成ユニット(医学部講内E棟)
原田浩 (内線:9301、e-mail: hharada@kuhp.kyoto-u.ac.jp)